

部 品

用 品

整 備

最新動向

TECHNO テクノレーダー RADAR

46

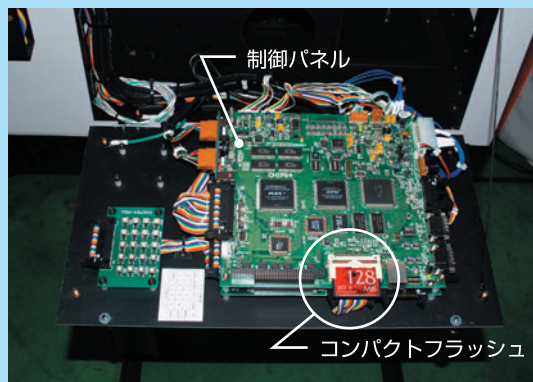
ヘッドライト テスタ

次世代ヘッドライトの検査にも対応するソフトウェア更新機能を搭載!



10インチワイド型液晶モニターには、確実な検査と能率アップをサポートするメッセージが表示される(写真上)。またテスタの操作や測定時の作業要領などをまとめたヘルプ機能を搭載。こちらも将来、内容の更新が可能だ(写真右)。

ヘルプ機能



▲Linuxをベースに開発されたソフトウェアはコンパクトフラッシュに記録されているので、新しいバージョンへの更新が容易にできる。

▶最近、出始めた「新型Zビーム」や、登場が間近とみられるLEDヘッドライトにも、ソフトウェアの更新により対応する。



未永くいつでも最新基準で検査が可能!

現在、自動車のヘッドライト技術は著しく進展し、キセノンランプ(HID)やAFSなどが着々と普及する一方、LEDヘッドライト(写真参照)のような先進技術も実用化が間近に迫っている。またランプの配光においては、すれ違いビームに「カットオフ」が導入され、そのライン形状が「Z」の文字に似たもの(通称Zビーム)を採用する車種が増え、さらに直近ではZビームをベースにライン形状へさらなる加工を施した「新型Zビーム」も登場している。

このように、ヘッドライト技術が先へ先へと突き進む中にあるのは、せつかく「すれ違い(下向き)ビーム」対応のヘッドライトテスタに代

替しても「有意義に使える期間が短くなるかもしれない」と少なからず不安を感じてしまう。

こうした中、新登場した画像処理式ヘッドライトテスタは、画像処理と基準に適合するかの判定などを行うコンピュータのソフトウェアを更新することができる仕組みになっている。

これは、本体内部の制御パネルに差し込まれたコンパクトフラッシュに必要なソフトウェアが全て記録されており、これを交換するだけで簡単に新しいバージョンへ更新できるのだ。

これなら将来、未知なるヘッドライト技術が登場し検査のあり方が変わったとしても、テスタ本体を代替するよりもはるかに安いコストでアップグレードできるはずだ。